

旭川通園事業所 支援プログラム



放課後等デイサービス 保育所等訪問事業

- ①健康状態の維持・改善
- ②生活リズムや生活習慣の形成
- ③基本的な生活スキルの獲得

- ①ご家庭内での困りごとについての相談受付
- ②必要に応じて面談を行う
- ③懇談会を実施し意見交換を行う

運動・感覚

- ①健康状態の維持・改善
- ②生活リズムや生活習慣の形成
- ③基本的な生活スキルの獲得

- ①体幹
 - ・日常生活や学習活動への配慮
 例) バランス: 体幹を鍛える→参加する事に意力的になる→他の人の話を聞く事が出来る
- ②技巧
 - ・感覚を伴う活動
 例) 掴む: ボールを掴む→掴んだボールを移動する
 ※指の力と物の形が変わる場合の持ち方、力加減を学習し日常生活に必要な手段の幅を広げる
- ③運動
 - ・体力の向上
 例) 楽しい運動の活動: ボールを転がす→ボールを追う→ルールを覚える→チームワークを経験する
 ※活動が自己満足ではなく、複数人で取り組む事により達成感を共有し持続へと繋げる

認知・行動

- ①認知の発達と行動の習得
- ②空間・時間、数等の概念形成
- ③対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得

- ①行動分析
 - ・行動分析を用いた支援
 行動の悪循環を防ぐ→正しい行動への転換
 ※誤学習に繋がった原因を探り適切な支援へと結びつけていく
- ②統一した関わり
 - 関わり表の活用: 対象児童の混乱を防ぐ為の支援
 - ※児童の混乱を防ぐ為、職員が共通の認識を持つことが出来る



人間関係・社会性

- ② 他者との関わり
- ②自己の理解と行動の調整
- ③グループ活動への参加

- ①役割の認識
 - ・自身の位置付け
 役割を明確にする→集団としての目標を達成する→集団活動の楽しさを知る
 ※集団活動でのルールと役割を学ぶことにより、その先にある達成感を経験する
- ②他者との関わり
 - ・作り上げていく経験
 適応力を高める: 役割での対応力を広げる→自己判断力を高める→その時々での対応を経験から考える事が出来る
 ※集団活動では、自分の思い通りにならないこともあることから、経験を積むことにより克服していく

言語・コミュニケーション

- ①言葉の形成と活用
- ②コミュニケーションの基礎的能力の向上
- ③手段の選択と活用

- ①適切なコミュニケーション手段
 - ・認知度に合わせた教材や活動内容を考える
 ※認知度に合わせた関わりを提供する事により、理解・表現能力が向上し、伝わる事を多く経験する事により、人に関わる事に対する意力が湧く
- ②必要なツールの活用
 - ・絵カードやスケジュールボードを使用し、ご本人の意思がくみ取れるように心掛ける

具体的な
支援



健康と生活

- ①利用時における医師による健康管理と診察
- ②ご家庭での状況の聞き取り(ご家族から家庭で気になる症状の共有)
- ③看護師による状態観察(利用児の状況を細かに観察しご家庭と情報の共有)

運動と感覚

- ①個々の身体能力を見極め、支援の方法と質を考慮する(自力での動きを促す)
- ②支援や活動の度に事前に声かけを行い、行為について認識できるように努める
- ③様々な姿勢(仰臥位・側臥位・座位)を取ることで、筋力の向上と維持を目指す
- ④可動可能の部位の可動域の向上に努める(定期的なリハビリの実施)

認知・行動

- ①緊張や興奮がある場合、事前・事象・事後を細やかに観察し不安要素を改善する
- ②本人が好む体位を主体に、苦手な体位についても無理のない範囲で経験する

人間関係・社会性

- ①複数での活動を通して、一緒に楽しみ経験を多く提供する
- ②特性の同じ利用者とペアになり、喜びを共感できる活動を取り入れる(グループ活動)
- ③職員が意識的に利用者同士の仲介役となり、相手を意識させる関わりに努める

言語・コミュニケーション

- ①言語以外の表出(手招き・叫び・顔き)などを読み取り、個々の表現力を広げる事に努める
- ②何が好きで何が楽しんでいるかを見極め、利用児にとって興味のある活動を提供する
- ③職員からの声かけを多く設け、意思表示が出来る環境作りに努める

地域支援・連携

- ①保育所等訪問支援事業を通して地域の保育園や学校等と密に連携をとる
- ②自立支援協議会に参加し地域課題を把握する

旭川通園事業所では、医師・看護師・児童指導員・保育士・支援員が在籍しており、個々の支援についてそれぞれの職種の専門性を活かしながら安心安全で楽しい支援を提供しています。

